

北海道価値創造パートナーシップ会議 in 帯広 ～新たな北海道総合開発計画に向けて～
出席者の意見概要

1. 人が輝く地域社会の形成について

【北海道の価値創造力の強化】

(人々を引きつける多様な場の創出)

- 高齢者が活躍する場を検討するに当たっては、元気で主体的に動ける人と、そうではない人がいることを踏まえておく必要がある。また、リタイアしたばかりの高齢者は、次世代に何かを繋ぎたい人、自分の人生を楽しみたい人に二分化している。
- 移住希望者に長く居続けてもらうためには、困難な部分も含めて事実を伝えていく必要がある。実際に移住した人が相談を受けるということも有効。また、実際の暮らしのイメージが掴めるような情報発信、機会を設けることが必要。
- 紙の媒体によるアナログな情報発信ツールとSNSは、それぞれ有効な年齢層があり、どちらも必要。
- 新たなビジネスモデルを構築するまでは、金銭面など非常に厳しい時期が続く。新しいビジネスで可能性のあるものに対しては、もっと幅広い行政のバックアップがあればよい。

(地域づくり人材の発掘・育成)

- 北海道内にはデザインやムービー制作に長けた人も多いので、そのような人と地域づくりに携わる人をつなげ、組み合わせることにより情報発信できるような仕組みができればよい。
- 地元愛の強い学生とそうではない学生がいるのは、地域のことをどのように伝えるかという自治体の取組の差であると考える。「北海道学」が浸透すれば、もっと地元愛の強い学生が増え、学生が有する発信力を期待できる。
- 学生は無限の可能性があり、伸びていく地域の資産である。このような国の計画にも関わる機会があってもよい。
- 北海道が国の課題解決に向けて役割を担っているということを、子供にも明確に理解できるように資料があつたらよい。

2. 世界に目を向けた産業の振興について

【農林水産業・食関連産業の振興】

(「食」の総合拠点づくり)

- 一年を通して仕事を創出できると、移住者の定着が可能になる。エネルギーをカスケード利用することにより年間を通した様々な形態の農業が可能になると思うので、そのようなことができる工場を農地付近に誘致できればよい。

(農山漁村の活性化)

- 大阪の高校生を十勝エリアで広域的に受け入れる「農村ホームステイ」を展開。生徒は大阪に戻ってからも事後学習を行い、進路選択の中に農業分野が視野に入っている生徒もいる。北海道や十勝に対するリピート意識にもつながるものと考える。
- 子供達の不登校や引きこもりの原因は、生活習慣の乱れ、希薄な対人関係、直接体験の不

足にあると言われている。農村生活はその解決の糸口になる。北海道が農村生活体験の受け皿になることにより、国の課題解決に貢献できるのではないか。

- 農村の美しい景観は、農家の方々が作ってきたものであり、地域に産業があつてこそそのもの。産業として守っていく必要がある。

【世界水準の観光地の形成】

（世界に通用する魅力ある観光地域づくり、観光旅行消費の一層の拡大）

- 観光地だけではなく、目的地まで続く道の景観が良いという声がある。移動時間が長くなることから、道の景観が旅の印象として強く残るのではないかと。景観を阻害するフェンス等の設置の工夫やトイレ等の受入環境の整備が必要。
- 地域の食や景観を楽しんでもらう地域活性型のサイクリングイベントを行っているが、路面状態が悪かったり、グレーチングに車輪が挟まることもあるため、自転車にも優しい道路環境整備が必要。

【地域の強みを活かした産業の育成】

（地域性・文化性を活かしたブランド力の向上）

- これまでは地域に特徴ある商店があつたが、全国チェーン店の進出などにより地域の顔が無くなってしまった。中央が日本全体を牛耳っている印象があるため、北海道らしさの形成を考える必要がある。